

調査書作成上の注意

就実中学校

- 1 就実中学校に提出する調査書は、県立中学校および中等教育学校に提出する調査書と同一書式とする。小学校等が本校または高校教育課ホームページからダウンロードしたものを基に作成し、プリンタから出力したもののほか複写したものでよい。
以下、2項から4項(9)までの内容は、県立中学校および中等教育学校に提出する調査書を作成する場合と全く同じである。
- 2 ※欄は、記入しないこと。
- 3 第6学年の記入事項のうち、出欠の記録は10月末現在、その他の項目については1学期（前期）末現在で記入する。
- 4 各欄の記入は、次のとおりとする。
 - (1) 「志願者」
 - ア 性別：男女のいずれかを記入する。
 - イ 小学校名：正式名称を記入する。
 - (2) 「各教科の学習の記録」
 - ア 「観点別学習状況」

第5学年については、児童指導要録（以下「指導要録」という。）に記入してある「観点別学習状況」を転記する。第6学年については、観点ごとに指導要録に記入する仕方によって、A、B、Cの評価を記入する。
 - イ 「評定」

第5学年の評定については、各教科とも、指導要録に記入してある3段階評定を転記する。第6学年の評定については、各教科とも、指導要録に記入する仕方によって、目標に準拠した評価による3段階評定を記入する。
 - (3) 「外国語活動の記録」

第5学年については、指導要録に記入してある各観点別の評価に基づき記入する。第6学年については、指導要録に記入する仕方によって記入する。
 - (4) 「総合的な学習の時間の記録」

この時間に行った学習活動、取組の内容（テーマ等）、児童の学習状況における顕著な事項や児童にどのような力が身に付いたかなどを記入する。第5学年については、指導要録に記入してある内容に基づき記入する。第6学年については、指導要録に記入する仕方によって、内容について記入する。
 - (5) 「特別活動の記録」

第5学年については、指導要録に記入してある○印を該当欄に転記する。第6学年については、指導要録に記入する仕方によって、○印があれば該当欄に記入する。○印のない欄には「・」を記入する。
 - (6) 「行動の記録」

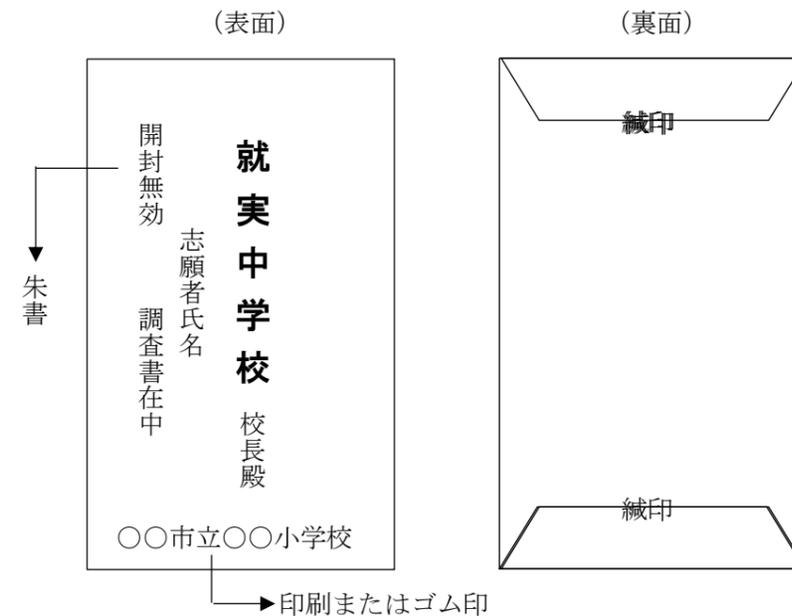
第5学年については、指導要録に記入してある「行動の記録」を転記し、第6学年については、指導要録に記入する仕方によって、○印があれば該当欄に記入する。○印のない欄には「・」を記入する。
 - (7) 「出欠の記録」
 - ア 第5学年については、指導要録に記入してある「欠席日数」を転記し、第6学年については、10月末現在で記入する。
 - イ 「欠席理由」欄には、各学年で、欠席日数の計が15日以上又は連続して6日以上ある場合、その主な理由を記入する。ただし、出席停止、忌引き等の日数は、欠席日数に含めない。

(8) 「総合所見及び指導上参考となる諸事項」

以下のア～エについて児童の成長の状況等を記入する。

- ア 第6学年における観点別学習状況における優れた特徴や、各教科の学習について総合的に見た場合の児童の長所。
 - イ 特別活動に関する事実及び所見。
事実…第6学年における所属する係名、委員会名、クラブ名及び学校行事における役割。
所見…第6学年における学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事などにおいて優れた活動や目立った活動。
 - ウ 行動に関する所見。第6学年における全体的にとらえた児童の特性、行動面で優れている点など。
 - エ 検査、調査、観察等を通して見られた児童の適性、特技（資格、段位等を含む）等。
- (9) その他の留意事項
- ア 教科「英語」を実施し、観点別学習状況を指導要録に記入している学校は、(2)アに準じて「英語」の欄に記入する。その場合、「外国語活動の記録」の欄には斜線を引く。なお、評価の観点については、必要に応じて観点を修正・追記する。
 - イ 教科「英語」を実施しているが指導要録に評定を記入していない学校は、「評定」の欄に斜線を引く。
 - ウ 教科「英語」を実施していない学校及び教科「英語」を実施しているが観点別学習状況を指導要録に記入していない学校は、「英語」の欄に斜線を引く。
 - エ 教科「英語」を実施し、指導要録に「外国語活動の記録」を記入している学校は、(3)に準じて「外国語活動の記録」の欄に記入する。
 - オ 道徳科の評価は、調査書に記載しない。

5 調査書を封入する封筒の様式



* 封入する時には調査書を折り曲げてよい。